

OVER the RAINBOW

卷頭言

大阪教育大学 理事・事務局長 新津 勝二
『日本ラグビーと多様性』

vol. 26

TOPICS

- 日本留学アワーズ
- 第10回グローバルセンターシンポジウム
- 修学支援金目録授与式
- 地域の国際交流団体による交流活動
 - ホームビギットプログラム
 - 門松づくり体験
 - 留学生講演「異文化の暮らしを学習しよう」
 - 柏原市議会議員と留学生との意見交換会

- 秋季日本文化研修(三重県)
- スタッフ紹介
- 2019年度後期修了留学生メッセージ
- 留学生コラム
- グローバルセンターの活動
 - 留学生チューター活動
 - School Internship and Cultural Exchange Program (SICEP)
 - 留学生支援のお願い



写真: 2019年11月 秋季日本文化研修(三重県・伊賀市)にて

大阪教育大学 理事（総務担当）・事務局長 新津 勝二

『日本ラグビーと多様性』

昨年は、日本開催のラグビーワールドカップ2019で世界中が盛り上りました。特に、日本チームが予選リーグを全勝して史上初の決勝リーグに進んだことで、ラグビーに興味のなかった人も加わり、日本中に感動の輪が拡がった記念すべき年になりました。

なぜ、あれほどの感動を呼び起したのか？実は、東京オリンピック・パラリンピックの前年度に開催されるラグビーワールドカップ2019は、関係者以外ではあまり注目されていませんでした。ラグビー好きな私自身も、4年前の南アフリカ戦で勝利した感動は残っていたものの、日本チームの半分を占める外国人選手の存在に多少の違和感を抱いていました。しかし、選手登録のルールに従い、チームのために全力で献身的なプレーをする外国人選手の姿を何度も見るうちに、控えの選手も含めみんなで協働してゴールを目指すことの大切さを学ぶことができました。お互いの違いや個性を認め合って「ONE TEAM」になったことが多くの感動を呼んだのでしょうか。試合後にインタビューを受けた街の人は、『これが日本の将来目指すべき姿』と話していましたが、予測の難しい未来に向け、温暖化や環境問題など地球的規模の課題を解決するためには、国籍や年齢、性別に関係なくみんなでゴールを目指すことが大切であるということを示唆してくれたのだと思います。

本年4月から全面実施される小学校学習指導要領では、「言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科の特質を生かしつつ、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。」ということが明記されています。このことをラグビーに例えると、基礎体力や体幹（→基本的な知識・技能）を鍛えつつ、個人の特性（→教科等の特質）を生かして練習を重ね（→主体的・対話的で深い学び）、個々人（→各教科等）が協働してゴール（→課題解決）を目指すとも言えるのではないでしょうか。

ソサエティー5.0時代に対応した教員養成を先導する本学としても、教員組織の大くくり化などの改革を進めていますが、教科領域等を超えた連携と、大学と附属学校のみならず、教育委員会や企業等との連携強化も同時に実現することが重要です。加えて、国際交流もより一層充実することにより、大阪教育大学という『ONE TEAM』が実現するのだと思います。お互いの多様性を認め、これから社会で活躍することのできる人材をともに育成していきましょう。



» » 「日本留学アワーズ」に5年連続入賞

本学は、留学生に勧めたい大学・専門学校を選出する「日本留学アワーズ2019」で、西日本地区国公立大学部門に入賞しました。

同賞は、日本留学を志す外国人留学生の環境整備および日本留学全体の振興に貢献することを目的として設立され、全国の日本語学校の教職員らが投票し受賞校を決めるものです。8回目となった今回は、全国の日本語学校約260校の投票により、部門別に50校が選出されました。本学は、「教育内容」「入試システム」「日本語学校との連携」「学生の満足度が高い」などの点が評価され、国公立大学部門が設置された2015年から5年連続の入賞となりました。

8月3日（土）に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された授賞式に、本学グローバルセンターの長谷川ユリ副センター長・教授が出席しました。長谷川副センター長は、「5年連続で選出していただき、光榮です。日本語学校の先輩から話を聞いて本学に興味を持ってくれる学生も毎年見られるようになり、このような評価は大変励みになります」と喜びを語り、「留学生定員化の実施を進め、全学をあげて留学生受け入れに積極的に取り組んでいます。これからも日本人学生と留学生がともに学びあう環境を整えていきたい」と抱負を述べました。



第10回 グローバルセンターシンポジウム 「多文化共生社会における学校の使命 — ドイツの学校の挑戦」を開催



9月19日(木)、本学の協定校ライプツィヒ大学教育学部とその協力校から3名のゲストを招聘し、学校における外国人児童・生徒の受け入れをテーマとするシンポジウムを開催、約35名が参加しました。

午前中は、日本の現状と未来に向けた改革の提案を、森田英嗣理事・副学長および学校教育講座・臼井智美准教授が行いました。午後からは、バルバラ・ドリンク教授が「違い」を受け入れるための教育について語り、続いて2人の小学校の校長先生、ベッティーナ・トゥルンマー氏とナンシー・カレンバッハ氏が自分たちの学校の取り組みを紹介しました。この2校は移民の背景をもつ子どもたちが6割から8割を占め、少数派であるドイツ人児童もいわゆる困難家庭が多い地区にあります。外部からの多くの支援を得て、保護者とも密接な関係を築き、第2言語としてのドイツ語教育(DAZ)や各種プロジェクトを通して、チャレンジを続ける姿が印象的でした。

参加者から多くのコメント、質問があり、アンケートでは「ドイツの現場の取り組みは日本の学校にとっておおいに参考になる」「今後もドイツと学校現場レベルでの交流をぜひ続けていきたい」といった感想が寄せられました。



修学支援奨学生目録授与式を挙行

令和元年度大阪教育大学修学支援奨学生目録授与式が12月19日(木)に行われました。

大阪教育大学修学支援奨学生は、経済的理由により修学に困難がある学生を支援することを目的とし、趣旨に賛同する個人・団体から募った寄附を原資として創設したもので、平成30年度から開始し、今年で2回目の実施となります。このたび、人物、学業とともに優れた学生の中から、日本人の学部生6人と大学院生2人、外国人留学生の学部生14人と大学院生6人の計28人が奨学生に選ばれ、奨学生を授与されました。

授与式では、伊藤敏雄理事・副学長から目録が授与され、お祝いと今後の活躍に向けて期待の言葉がありました。留学生を代表して大学院教育学研究科の高 海燕(コウ カイエン)さんからは「私たち留学生は今後も期待にこたえられるように、国と国の懸け橋となって、世界平和への実現に向けて社会に貢献していくことを誓います。」と決意が述べられました。最後に森田英嗣理事・副学長から、奨学生として選考されたことへの賛辞と激励がありました。授与式には、留学生後援会の方々にも多数参加いただき、和やかに記念撮影を行い、ご歓談いただきました。今後も、奨学生を温かく見守っていただけますようお願いいたします。



地域の国際交流団体による交流活動

ホームビジットプログラム

グローバル香芝

11月9日(土)に留学生12人がグローバル香芝ホームビジットプログラムに参加しました。まず全員で集まって自己紹介をし、その後、パートナーになるホストファミリーと留学生が発表されました。それぞれとても楽しい午後を過ごしました。以下は参加した2人の留学生の感想です。

日本人のお家は初めてでしたので、最初は緊張しましたが、楽しい一日でした。とても賑やかで、子供達もすごく元気な暖かいお家でした。おばあさんが晩ご飯を作ってくれ、皆と話していると、あつという間に時間が過ぎました。さらに、私の誕生日までお祝いしてくれて、まるで家族のように感じ、感動しました。この思い出は一生の宝物にします。私ばかりいっぱいいただきました。心から、感謝しています。

(リ ゲンギ／台湾／特別聴講学生)

ホストファミリーは、最初に神社で正しいお参りの仕方を教えてくれました。家に着いたら、色々な話をしました。芸術がとても上手なホストファミリーは、書道や水墨などを教えてくれました。お母さんが作ったお鍋も美味しかったです。ホストファミリーはとても優しくて、一緒に過ごした時間は早く過ぎてしまったと思いました。帰る時には、また家に遊びに来るよう誘ってくれたので、感動し嬉しかったです。ホームビジットに参加して良かったです。

(ファン ティ チャン／チェコ／日本語・日本文化研修留学生)



異文化の暮らしを学習しよう

柏原市人権推進課

11月6日(水)、柏原市フローラルセンターで毎年実施されている講座「異文化の暮らしを学習しよう」において、本学の教員研修留学生エバソン・ワキサ・シチャリさんが講師として招かれ、出身国のマラウイについて紹介しました。エバソンさんは、母国では高校の教員で、体育と数学を教えています。

エバソンさんは、マラウイの地理や歴史についてクイズを交えながら紹介したあと、有名なマラウイ湖や、数多くの動物が生息するニイカ国立公園をはじめとするアフリカの雄大な自然、国内の多様な民族の言語・文化、宗教、料理、国家の大切な祝日、経済の状況など、スライドで写真を見せながら詳しく話しました。最後に教育制度についても説明し、近年は世界銀行が投資するTEVETAによるプロジェクトなど、政府が教育改革に意欲的に取り組む一方で、農村部では教師が不足し、施設・設備なども不十分であるという話に、皆熱心に耳を傾けていました。

質疑応答の時間には、「マラウイから日本に来ている人は多いですか」「日本に来たいと思ったきっかけは?」などの質問が出ました。また、「講師の方のお話を聞いて、心温かい国だと感じた」「日本から遠い国で知らないことばかりだったがとても勉強になった」「(大阪教育大学での研修前の)半年間の日本語集中講座でこれだけ日本語が話せるようになったのはすごい」との声が寄せられ、大変好評でした。



門松づくり体験

シニア自然大学校

12月11日(水)、シニア自然大学校の皆さまの主催により、今年度も門松作り体験を開催していただきました。季節外れの暖かさとともに会場も熱気に包まれていました。

松以外にも、真竹や南天、千両といった門松には欠かせない材料を用意して頂き、門松作りを行いました。留学生は初めて使う日本の鋸に最初は戸惑っていました。しかし、慣れると上手に竹を切って行きました。シニア自然大学校の皆様にやさしく手ほどきいただきながら、立派な門松を完成させました。

この日参加した留学生は11名、シニア自然大学校の皆様は70名も見えられるなど、門松づくりは留学生に人気の体験プログラムです。今回は、留学生の参加が少なくなったものの、日本のお正月を体験できる貴重な機会となりました。参加者は皆、地域の皆様と交流し、自然に触れ合う素晴らしい機会を満喫していました。シニア自然大学校の皆様、ありがとうございました。



柏原市議会議員と留学生との意見交換会

柏原市議会

柏原市議会議員と留学生との意見交換会を10月23日(水)に実施し、柏原市議員15名と本学留学生19名が参加しました。

意見交換会では、議員と留学生が3グループに分かれ、「柏原の魅力発見!～ええとこ、悪いとこ 私が住みたいまちにするには?～」をテーマに、各グループで議員の司会進行のもと柏原市の良い点や悪い点について意見交換を行った後、グループでとりまとめた意見を留学生の代表が全体へ発表しました。

留学生からは、柏原市の良い点として「自然豊かで町と調和している」、「治安が良い」、「人が優しい」、「福祉・サポートが進んでいる」、「町がきれい」、「ブドウが安くておいしい」、悪い点として「コンビニやお店が少ない」、「外国人の悩み相談の場が少ない」、「市のイベント案内が留学生まで届かない」、「山が多くて町にはいない動物が出る」、「駅に駅員さんがいない場合がある」など様々な意見が出されました。

また、留学生から柏原市への要望として、外国人児童へのサポートの充実、自然と調和したまちづくり、外国人と日本人の交流促進、困ったときに相談できる場やアプリなどの提供、などが提出されました。

最後に総括と閉会挨拶があり、盛会のうちに意見交換会は終了しました。



秋季日本文化研修

三重方面

12月1日(土)に秋季日本文化研修が実施され、留学生と日本人チューター併せて78名が参加しました。今回の研修先は、三重県の伊賀流忍者博物館と、関宿です。

当日の朝、大学をバス2台で出発し、最初に伊賀流忍者博物館へ向かいました。まずは、伊賀流忍者屋敷に向かい、くノ一(女忍者)による、屋敷に仕掛けられた数々のからくり実演による、歓待を受けました。忍者伝承館では、忍者にまつわる歴史や、忍術について見聞を深めました。最後に忍術ショーを見学し、手裏剣、刀、鎖鎌、吹き矢などの忍具がどのように用いられていたかを、忍者たちの迫真に迫る実技で体感しました。舞台上で、鎖鎌や吹き矢を実演した学生もあり、工夫を凝らした忍具と、それらを華麗に使いこなす技に感嘆の声を挙げました。

続いて、江戸時代、東海道五十三次の宿場町として栄えた関宿へと向かいました。関宿は、1989年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。駐車場でボランティアガイドさんと合流し、説明を聞きながら散策しました。旧東海道の宿場町の中で唯一、在りし日の面影を今に伝える街並みが残っており、その非日常性に留学生一同、嘆息の声をもらしました。また11月に催される東海道関宿街道まつりに用いる山車が、江戸時代から変わらない道幅を練り歩く様子をガイドさんが鮮明に描写されると、留学生らは、狭い道幅を大きな山車が障害物に当たらないで行く様を想像し、驚いた様子でした。

今回の研修は、参加人数が78名と多く、にぎやかな道中でした。参加者みんなが、学びを得ながら、日本人学生と留学生との交流や留学生同士の交流を深めることもできた有意義な一日となりました。



»» スタッフ紹介

7月より留学生係に着任しました、池宮 優子です。

社会人となってから、もう一度学びたくなり、イギリスの大学で修士号を取得しました。

留学は大変な苦労もありましたが、自分が突き詰めて研究したいことを、ただただ一途に学習でき、グローバルに活躍している教授陣から教えを乞うことができる素晴らしい経験でした。この経験を存分に本務に活かして参りたいと思います。よろしくお願い致します。

留学生係 池宮 優子





	氏名 Name ソーランワチャラ Name SORARAN WACHARAL
出身 Nationality タイ Nationality Thailand	
<p>大阪教育大学での一年半は、 私にとって大事な経験になりました。</p> <p>ありがとうございました。 元気で頑張るよ!</p> <p>日本とタイの国旗</p>	

	氏名 Name ライサベレツ Name LISA BELETZ
出身 Nationality フィリピン Nationality Philippines	
<p>My Japan teacher-training experience is one of the most treasured blessings of my life. I thank all my amazing, loving and dedicated teachers and friends for all the memories. Everything is cherished!</p> <p>"Make your light shine!" →Matthew 5:16</p> <p>All His Best! 元気張る!</p>	

	氏名 Name EVERSON W. SICMUL Name EVERSON W. SICMUL
出身 Nationality マラウイ Nationality MALAWIAN	
<p>私のOKUの日々は一生 続くでしょう。国際的な 友人と出会い、新しい 文化を学ぶのはすばら しがちです。これは 最高の時間でした。</p>	

	氏名 Name イ・ジエジン Name EUI-JEONG
出身 Nationality 韓国 Nationality South Korea	
<p>一年間とも 楽しかったです。 いい思い出たくさん 作って帰ります。 残りのみんなも 元気張れよ!!</p>	

	氏名 Name リリー・ティン(ニナ) Name LILY TIN(NINA)
出身 Nationality 台湾 Taiwan	
<p>おおきに おおきに</p> <p>mima 2019 DEC</p>	

	氏名 Name タエンタンカン Name TANTHAKAN
出身 Nationality ベトナム Nationality Vietnam	
<p>○ 3 ○ 1年間 OKUで 交換したことは 毎日喜び♡</p>	

	氏名 Name チョウガナン Name CHOWGAN
出身 Nationality 中国 Nationality China	
<p>多數(=追隨すれば) 必ず"自分を見失う。孤 独を恐れず",したいこと を続けるしかない。</p>	

	氏名 Name 陶星星 Name TAO XINGXING
出身 Nationality 中国 Nationality China	
<p>日本の文化をたくさん 体験して、本当にいい 思い出になりました!</p>	

	氏名 Name ショウキンテイ Name SHOWKINTAI
出身 Nationality 台湾 Nationality Taiwan	
<p>ありがとうございました。 おつかれ様でした。</p>	

	氏名 Name Liam Thorpe Name LIAM THORPE
出身 Nationality Australia Nationality Australia	
<p>I enjoy taking photographs so the school festival this year was a lot of fun.</p>	

	氏名 Name サラ Name SARA
出身 Nationality スイス Nationality Switzerland	
<p>GLC ありがとうございました。 おつかれ様でした。 やさしいと嬉しい また来て下さい。</p> <p>また来ます!</p>	



留学生コラム

～Message From OKU International Students～



2016年入学
教養学科芸術専攻
芸術学コース4回生
指導教員：瀧 一郎

趙 楊俊博 (チョウ ヨウシュンボ)

2014年に日本に来た時からもうすでに6年が過ぎ、自分も少しづつ成長してきました。日本に来た時の自分は18歳で、初めて親から離れ、自分で将来の道を決めなければいけない時を迎えるました。迷いの中、心の中の芸術への愛を感じて、今の専攻の芸術学コースを選びました。このコースは主に芸術を理論的に勉強するところで、クラスメイトたちもそれぞれ違う趣味を持って、授業で絵画、音楽、文学、ダンスなど、いろんなジャンルの作品を芸術的な視点で学びました。このコースはとても充実していて、楽しい4年間を過ごしました。しかし、自分はずっと芸術の製作者になりたいという夢がありました。その夢を叶えるため、三回生後半からいろいろ準備をし、今年大学院の美術研究科の試験を受け、そして無事合格しました。これで自分は一步夢に近づくことができたような気がします。大阪教育大学もある意味夢を叶えてくれた場所でもあります。

この4年間を振り返って、一つ思いついたのは、人は理想や夢を追いかけている時、いろんな声や意見が聞こえます。でも、たとえ何があっても自分を信じるべきだと思います。自分の感覚、自分の信念、自分が思う正しいやり方、それらは全て大事なことだと思います。人は周りの環境に溶け込むため、日々自分を変える必要があります。違う国で生活している留学生にとっては、特にその必要があります。その変化によって自分をより素晴らしい人間にすることもあります。逆に自分が変わらなくなったら感じる時もあります。その変化で自分を見失ってはいけません。本当の自分が分からなくなってしまうと、夢からもどんどん遠くなってしまいます。自分はこの4年間で何回も目標や信念を見失いました。しかし、周りの優しい友達、先生からの支えで何回も復帰ができ、やっと今にたどり着きました。自分は本当に心からそばにいてくれた人たち、またこの夢を叶えてくれた大阪教育大学に感謝しています。本当に素晴らしい4年だったと思います。



2016年入学
教養学科文化研究専攻
日本・アジア言語文化コース4回生
指導教員：佐藤 一好

許 連超 (キョ レンチョウ)

日本人学生はあまり目立つことを好みません。グループ活動の時には、「上」でもなく「下」でもなく、平均的な「中」のレベルで他のメンバーと付き合うことが多いように思います。皆さんのまわりにも、そういう日本人学生が多いのではないかと思う。

しかし、日本語学校や自国から大教大に入学したばかりの留学生では、その「中」のレベルに合わせるのが簡単ではありません。日本語力も学校生活に関する一般常識も、日本人学生とは明らかに差がありますから。最悪の場合、「下の下」から始めるしかなく、かなり落ち込むことになるでしょう。所属するコースに留学生が一人しかいなかった私も、入学後すぐにそれを経験しました。チャイ語で言えば、まさに「圧力山大」（ストレスが山のように大きい）の日々でした（笑）。それでも諦めることなく、先生やクラスメートの助力を得て、なんとか無事に大学生活を終えることができました。

そこで、あえて一言です。皆さんも焦らず掛けず、一からゆっくりスタートして下さい。「他のことなら私の方が出来るのに」となどと苛立つことなく、まずはクラスメートと同じくらいの「中」を目指すことです。もちろん、その目標に辿り着いても満足できない人は、「中の上」から「上」へ段階的に目標を上げて頑張っていきましょう。

たかが大学四年、されど大学四年です。願わくば、皆さんがこの大教大で自分の可能性をMAXまで発揮せんことを。



2017年入学
大学院教育学研究科
特別支援教育専攻3回生
指導教員：井坂 行男

金 美蘭 (キム ミラン)

「石の上にも三年」これは日本に留学に来てはじめて覚えたことわざです。冷たい石の上でも3年も座り続けていれば暖まってくるという意味が日本文化の「禅」と通じるものがあると感じ、心に響くことわざでした。しかし、2012年大阪教育大学を卒業してしばらく忘れていましたが、2017年大学院の入学を控え、いろんな不安を抱いていた時にふつと思い出したのです。まずはできることからはじめようと、どんなに大変なことがあったとしても我慢強く辛抱すれば必ず大丈夫だと、「石の上にも三年」ということわざと学部生のときの4年間の思い出が心の支えになりました。

学部生と大学院生を合わせて7年間、大阪教育大学では学術的知識のみならず、人と人との繋がりを大切にする気持ちや共に助け合うことが社会を動かす原動力となると学びました。大学で過ごした時間は私にとってかけがえのない経験です。グローバルセンターの先生方や職員の方々には感謝の言葉では言い表せないほど感謝しております。また、井坂先生をはじめ、特別支援教育講座の先生方には3年間いつも温かくご指導いただきありがとうございました。深く感謝申し上げます。



グローバルセンターの活動

グローバルセンターでは、年間を通して海外の協定校との交流プログラムや学内の国際交流を推進するプログラムを実施しています。

留学生チーチャー活動体験談

私は大学学部時代より4年間留学生のチーチャーとして活動をしました。チーチャーとして、週に1回ほど留学生と会い、留学生活のことを中心に話しながら留学生をサポートしました。生活面では日本の生活で不自由しているところはないか、ホームシックになっていないかを話しながら聞き出したり、語学面では日本語の語彙や文法の質問があったときに、簡単な日本語で説明したりしました。

私は今までアジアからヨーロッパまで様々な留学生のチーチャーをさせてもらいました。そこで外から日本はどう見られているのかを聞いたり、日本の文化についての意見を交換したり、留学生の国について話をしたりと、私自身もたくさんの学びがありました。

私はチーチャーとして、留学生に少しでも日本の文化や、地元の日本人がするようなことを多く経験してほしい、そして日本をもっと好きになってほしい、という思いで活動してきました。留学当初は日本語で

崎浜 亜規(さきはま あき)さん
大学院教育学研究科 保健体育専攻3年

会話するので一生懸命だった留学生が、帰国直前には関西弁をまじえて流暢に日本語を話している姿がとても印象的です。

留学生が留学を終えて国に帰った後も、来日するときには日本で会ったり、私がその国に旅行するときには現地で会ったりする一生の友達になりました。また、チーチャーをしていると担当の学生だけでなく他の留学生とも仲良くなれる機会があるので世界中に友達ができました。その留学生たちとも異文化交流をしたり互いの国の料理を作ったりとても楽しい思い出になりました。

留学生のチーチャーとしての活動は私の学生生活をより充実したものにしてくれました。留学生チーチャー制度は、留学生とチーチャーのどちらにとっても大切な制度だと思います。



School Internship and Cultural Exchange Program (SICEP)

本学の協定校である中国(香港)・香港教育大学とスイス・ジュネーブ大学の学生10名を受入れ、6月17日～6月28日の日程で、「School Internship and Cultural Exchange Program (SICEP)」を実施しました。このプログラムは、日本の教育について学ぶことを通じて日本に対する理解を深め、小・中・高校での観察実習を体験することによりグローバルな視点を持つ人材を育成することを主な目的としています。日本語や日本語学以外の専攻の学生でも参加できるように全て英語で実施しており、本学の日本人学生も通訳などを担当するチーチャーとして協力しました。本プログラムは日本学生支援機構の海外留学支援制度(協定受入 短期研修・研究型)に採択され、研修参加者全員に奨学金が支給されました。

10名の研修生は、本学で「日本の学校について」「外国語としての

英語教育・日本語教育」「Seminar on English Linguistics II」「英語 II a」などの講義を受講し、日本の教育や英語教育について学びました。また、本学の附属天王寺小学校・中学校、附属平野高校で観察実習を行い、附属平野高校では自国の文化紹介もしました。さらに、大阪くらしの今昔館、山本能楽堂の見学を通して本学の日本人学生との交流を深めながら日本文化について学びました。プログラム最終日には修了発表を行い、全員に修了証が授与されました。

研修に参加した学生からは、「このプログラムでは日本の教育について学んだだけでなく、日本人学生や児童生徒と交流できてとてもよかったです」「自国の教育や文化との比較を含めて、様々なことを深く考えるきっかけとなった」「日本の子どもたちは小さい時から皆で共に学ぶ姿勢が身についている」などの感想が寄せられました。



留学生支援のお願い

学内教職員

- 一口1,000円/月、給与から天引き

学外支援者

- 振込…任意の金額を下記宛てにお振込下さい

三菱UFJ銀行 藤井寺支店

普通預金 口座番号: 5210211

名義: 大阪教育大学留学生後援会(オオサカキヨウイクダイガクリュウガクセイコウエンカイ)

- 現金納入

